

版画 私の実践



版画の種類	ステンシル	学校名	出雲市立南中学校	指導者	下垣 明	
題材名	版画アニメーション		学年	2年生	時間	3時間
題材のねらい ・「動き」の表現を版画技法で楽しみながら工夫する。 ・自分の思いを表せるように見通しを持って表現を計画する。						
版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・型紙を切り抜き、切り抜かれた孔の部分から下の画材（紙）に絵の具を捺染させる。</li> <li>・はさみやカッターを使って、短時間で手軽に版をつくることができる。</li> <li>・孔版のため、造形は切り抜いた形を生かすことも反転させることもできるが、単純な形で表現される。</li> <li>・容易である。</li> <li>・色を変えたり重色の表現が容易にできる。</li> <li>・紙版で限度はあるが、多刷できるので動画表現に利用できる。</li> </ul>					
準備	マニラボール紙、版画用紙、カッターナイフ、デザインカッター、アクリル絵の具、パレット、洗筆バケツ、たんぼ（ぼろ布・輪ゴム）、新聞紙、デジタルカメラ、パーソナルコンピュータ（以下PCと略）、テレビ（PCと接続できる）、					

授業の流れ

授業の流れ	ワンポイントアドバイス・裏技
1. アニメーション制作の工程を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーションの原理を理解する。</li> <li>・版画アニメーションの工程を把握する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         ステンシル（板紙孔版）の技法を用いて                          ①10枚の紙に                          ②図案を移動しながらスタンピングして、                          ③動画をつくり、                          ④PCに取り込んだ作品を鑑賞する。                     </div> 2. 動きを楽しむ版を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・下絵を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品を鑑賞する。</li> <li>・マニラボール紙を孔版型とする。</li> <li>・複雑な形や細い部分につくらない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下左右の移動 ・回転、・増加</li> <li>・色のグラデーション</li> </ul> </div> 等、変化のバリエーションを楽しむ視点を持つ。

<p>3. 版（孔版型）を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ cutter（又はデザインcutter）を使って孔版型をつくる。</li> </ul> <p>4. 版（孔版型）を使って版画紙に絵の具を捺染する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 布きれでタンポを作る。</li> <li>・ パレットに絵の具を用意する。</li> <li>・ タンポにパレットに調合した絵の具を染み込ませ、版画用紙に捺染する。</li> <li>・ 画面上での図案の動きや変化をデザインし、計画的に配置していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孔版型となるマニラボール紙の厚みを考慮する。 （細かすぎる版の切り込み表現は、版画用紙に色が着かない）</li> <li>・ デザインcutterは曲線切りに最適。</li> <li>・ アクリル絵の具は、発色もよく、混色・重色にも効果的。適度の水を加えると良い。</li> <li>・ 絵の具を含ませたタンポで、筆代わりに塗りつけるのではなく、軽くポンポンと叩くように捺染する。</li> <li>・ 絵の具を水で薄めすぎると、毛細管現象により、孔版型から絵の具がはみ出してしまうことがあるので注意。</li> <li>・ 版画インク、ローラーや練り板等、手入れを入念にしなければならない道具を使わないので手軽に片付けられる。</li> </ul>
<p>5. 後片付け</p>	
<p>6. カメラで撮影した版画用紙群をPC上で編集したものを鑑賞する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①デジタルカメラで撮影し、 （スキャナーで読み取り、） ②PCにIMG画像として取り込み、 ③スライドショーで鑑賞する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記は手軽に編集する方法の一つ。</li> <li>・ デジタルカメラ撮影の場合、パソコンと繋がるディスプレイ環境があれば、授業中に完成させた作品をその場で生徒とともに鑑賞できる。</li> <li>・ 版画用紙をA4版にして、ドキュメントスキャナーで読み取った場合、処理が早いうちに画像が安定してきれい。</li> </ul>



### 5. 発展

アニメーションの原理を楽しむ短時間教材の表現方法として版画技法を使ったが、もう少し時間をかけて発達段階に応じた密度のある作品作りも考えられる。ステンシルは造形的には細かな表現は難しいので、色や動きの変化を楽しむグラフィックアニメーションが適している。ビデオ編集ソフトで画像を動画映像に編集することが可能。